

交牧連の活動日誌



～みんな違う みんな仲間～



第8回 全国の酪農家と情報共有

「循環」体現する酪農の意義、 改めて消費者に伝えたい

地域交流牧場全国連絡会東海ブロック(愛知県日進市 愛知牧場(有)愛知兄弟社) **尾関 努**

愛知県日進市で約130頭(うち搾乳牛約80頭)を飼養しています。牧場が地域交流牧場全国連絡会(交牧連)に加入したのは設立当初の1999年で、私自身は2012年ごろから活動に参加するようになりました。今年からクラブ・ユース事業(40歳以下または就農5年以下の会員などによる活動)の東海ブロック代表を務めています。牧場が都市近郊に立地していることもあり、87年頃から観光牧場の要素が増え、近隣の小中学校、保育園の受け入れや家族単位での来場も多くなっています。



2018年に名古屋市で開催した約90人が参加するクラブ・ユース事業の勉強会には

来場者の表情を見て酪農の大切さ実感

酪農を始めたのは私の曾祖父で、1954年に法人化し、(有)愛知兄弟社を設立しました。69年にはミルクプラントを建設し、牛乳の製造・販売を行うなど古くから6次産業化に取り組んでいます。この牛乳は近隣保育園などの給食に提供され、地産地消にもつながっています。



愛知牧場では乗馬体験やバーベキューなどもできる

また小学校の遠足や職場体験の受け入れも行って来たこともあり、私が子どもだった93年頃には既に地元で有名な牧場になっていました。

私は4代目の35歳ですが、父から牧場を継いでほしいと言われたことはなく、牧場には従業員が働いていたため「自分が継がなくては」という強い思いはありませんでした。そのため特に酪農の勉強をせずに大人になりました。

ある時、やりたい仕事が見つからず悩んでいた私は、経営する売店の人手が足りないことから、牧場で働き始めました。

そこで目にしたのは、動物との触れ合いを通じて笑顔になる子どもたちや、新たな発見に驚く家族連れの姿でした。私は都市近郊にある牧場の大切さを改めて感じ「この場所で牧場を続けていきたい」という思いを抱くようになりました。

クラブ・ユース事業で牧場視察受け入れ 経営を見直す良い機会に

数年働いたころから少しずつ父の仕事を教わるよ



2012年の全国研修会での牛乳飲み比べ。生産地で微妙な風味の違いが感じられた



牧場視察の他、衛生管理などをテーマにディスカッションも行った

うになり、交牧連の活動にも一緒に参加するようになりました。2012年に北海道で開催された全国研修会では各地の酪農家の牧場紹介や活発な意見交換を聞き、その熱量に圧倒されました。こうした人とのつながりはもちろんですが、チーズや牛乳の食べ比べも魅力的でした。特に牛乳は生産地ごとに微妙な風味の違いが感じられ、参考になりました。その後さまざまな活動に参加して同世代の酪農家や牧場スタッフと知り合い、各地で牧場見学をするなど貴重な経験を積むことができました。

18年のクラブ・ユース事業の勉強会は東海ブロックの担当でした。日程は2日間で、初日に名古屋市内で講演会とディスカッション、翌日に当牧場の視察というスケジュールです。視察に参加した皆さんから客観的な意見をもらうことができ、牧場を見直す良い機会となりました。

クラブ・ユース事業は牧場スタッフや学生の参加も多く、通常の活動とは異なる視点の話を聞くことができます。参加者の多くは、新たな取り組みへのモチベーションが高く、とても刺激を受けます。18年の勉強会に参加した当牧場の従業員はその後、意欲的な提案をするようになったと感じます。

酪農の知識が十分とはいえない私にとって、交牧連活動への参加は全国の酪農家の話を聞ける、とても良い勉強の場になっています。

「持ちつ持たれつ」や 「お互いさま」は今後も重要

交牧連に加入している酪農家の皆さんの考えに感心することが多く、とても刺激を受けます。特に食育などを含めた地域貢献への姿勢や、新しいことにチャレンジする行動力に大いに影響を受けました。こうした部分は今後も大事にしていこうと思っています。

近年、全国的に酪農家の戸数が減少しています。後継者不足が大きな要因だといわれていますが、私は地域のつながりが希薄になった現代の世情も関係しているのではないかと考えています。今まで当たり前だった「持ちつ持たれつ」や「お

互いさま」という考え方は、今後も国内で酪農が続く上で重要な要素だと思います。

また近年、「持続性」や「循環型」といった言葉をよく耳にするようになりましたが、酪農はまさにこれを体現する産業だと感じています。そのため、酪農の在り方や重要性を改めて消費者に発信する必要があります。地元の小学生を受け入れたり、6次産業化を進化させて消費者と直接関わる場をつくるなど、発信方法はいろいろあるでしょうが、「発信」の在り方を含め酪農家同士がさまざまな情報を共有できる交牧連は素晴らしい場だと思います。



私がクラブ・ユース事業に参加できるのはあと5年。その間に今後につながる経験を積み、さらには次の世代につながることも考えていきたいと思っています。

酪農の魅力をもっと消費者に伝えたいと考えている尾関さん

牧場概要

牧場名: (有)愛知兄弟社(愛知牧場)	牧場スタッフ: 6人(本人、従業員5人)
代表者名: 前田 俊司	交牧連加入年: 1999年
所在地: 愛知県日進市米野木町南山1977	主な活動: 近隣小中学校の職場体験受け入れ
総飼養頭数: 約130頭(うち搾乳牛約80)	酪農教育ファーム受け入れ
年間生産乳量: 約600t	飼料畑面積: なし
飼養形態: 放し飼い(フリーストール)	

地域交流牧場全国連絡会(交牧連)に関するお問い合わせ先

(一社)中央酪農会議内交牧連中央事務局
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295
メール: koubokuren@churaku.jp
ホームページ: https://www.dairy-farm.jp/
フェイスブック: https://www.facebook.com/koubokuren



【交牧連 HP】